

CIPFD会報

2015・09・13

NPO法人 国際障害者ピアノフェスティバル委員会
会長 迫田時雄

今私は2020年東京オリンピック・パラリンピックに私どもの「ピアノパラリンピック運動」を、この世紀の大祭典に芸術部門の一つとして取り上げていただけるようあらゆる努力をしています。

「百聞は一見にしかず・・・」といます。

さる7月21日、22日の「アジア・汎太平洋国際障害者ピアノフェスティバル in 東京2015」の大コンサート開催は、その為のデモンストレーションとして世間一般の方々や、オリンピック・パラリンピックの関係者の方々に、私たちの目指す ピアノによるパラリンピックとは どういうものかというのを見ていただく為に、まさにプロの音楽家たちのあこがれのホールである、「東京文化会館」で盛大に開かせていただきました。

お聞きいただいたお客様はもちろん関係者の方々も「これはいいものだ。」「ただ、障害者の発表会かと思ってきたが、飛んでもない素晴らしい内容に感心した。」と異口同音に述べて帰られました。

これもこの10年間コツコツと努力してこられた皆さんの成果だと誇らしく思います。

様々な問題百出の感があるとはいえ、2020年東京オリンピック・パラリンピックの機会は私にとって「まさに天の与えてくれたチャンス」だと思っています。

もし本当にオリンピックのスケジュールの中で協力させていただけるとなると、これはこれからの5年間、今まで以上に世界中の国々への働きかけを広めなければなりません。

できる限りすべてのピアノ愛好家へのチャンスは平等でなければなりません。そして世界中にはどんな素晴らしい才能の持ち主がいるかわかりません。埋もれた才能が、この機会に目覚め、花開く機会になるかもしれません。

そういう人たちが5年後東京を目指して続々と集まってくるとしたら、まさに舛添都知事のいう、「かつてない前代未聞のオリンピックにしたい。」という願いに応えることになるでしょう。

オリンピックは40億の人びとがテレビ中継で見るといわれます。

私どものこれからのスケジュールはこうした流れに沿って進めてまいりたいと思います。既にご案内のように5月29日の「アムウェイコンサート」7月21日+22日のアジア大会のDVDができました。

皆の素晴らしい演奏やスタイルが手に取るようにわかります。そしてこの中に賢明な皆様なら様々な学習のヒントを見出すことができるでしょう。

まさに「人のふり見て、我がふり直せ・・・」はいい言葉ですね。

再来年2017年は いよいよ**第4回国際大会**として 「アメリカ・ワシントンDC」での開催を予定しています。

その人材育成と「目指そうアメリカ大会日本代表選考会」として**来年9月18日（日）東京の「朝日新聞浜離宮ホール、小ホール」**で大コンサートを準備中です。どうぞ今からしっかり準備して挑戦してください。

こうした皆様の熱意こそオリンピックへつながる道です。

ご理解いただきたいのですが、運動というのはタダ単に自分の為ではなく、世界中の仲間たちの夢の実現にもつながるものでなければなりません。日本の東京オリンピックを作り上げるのはあなたなのですから。

アジア大会のDVDは、世界に一つしかない皆さんの、そして私たちの記録です。この運動をできるだけたくさんの方々に広めるためにお買い求め、宣伝にお使いください。

「美しい音楽の感動は、人としての素晴らしい感性と徳育の自然な発達を促し、正しいモラル感を培う」ことを古代ギリシャの人々は知っていました。